

令和3年度第1回羽咋市総合教育会議 会議録（要約）

- 1 日 時 令和3年12月17日（金）
開 会 午前10時00分
閉 会 午前10時56分
- 2 場 所 羽咋市役所 203会議室
- 3 出席者 羽咋市長 岸 博一
教育長 八島 和彦
教育長職務代理者 今井 和秀
教育委員 岡田 規子
教育委員 西浦 雅人
教育委員 西 和美
(事務局) 総務部長兼総務課長 川口 哲治
総務部次長兼企画財政課長 山本 裕一
総務課課長補佐 西村 広樹
教育次長兼文化財課長 池田 博明
学校教育課長 河崎 洋子
学校教育課学務担当課長 中山 信之
学校教育課課長補佐 北山 晃生
- 4 傍聴者 1名
- 5 協議事項
(1) 羽咋市の教育の現状と課題について
(2) 教育関連事業
①学校の適正配置について
邑知小・余喜小の統合の検討
②学校給食費の支援について
学校給食費の支援の拡充
③高い学力を維持するための学習力・教育力の向上について
平教育振興基金を活用した教育力の向上の継続推進
ハクイズム（ICT教育の羽咋方式）の推進
④学校サポート体制について
スクール・サポート・スタッフの増員、ICT支援員、図書館司書、図書館事務員、学校支援員・部活動指導員の継続配置
(3) その他

6 会議の概要 次のとおり

○岸市長あいさつ（開会）

○協議事項

（１）羽咋市の教育の現状と課題について

八島教育長から羽咋市の教育の現状と課題について説明。

（２）教育関連事業について

①学校の適正配置について 今井職務代理から説明。

②学校給食費の支援について 岡田委員から説明。

③高い学力を維持するための学習力・教育力の向上について
西浦委員から説明。

④学校サポート体制について 西委員から説明。

（３）その他

八島教育長から小中学校での不登校の状況などについて報告。

○八島教育長あいさつ（閉会）

【主な質疑・意見等】

【協議事項（１）について】

八島教育長：（現 状）

①質の高い教育力維持へ向けたより良い教育環境

今年度も高い教育力を維持することができた。しかし、現状に甘んずることなく時代の要求に対応した教育を実践していく必要がある。そのため今年度は、児童・生徒が自ら学ぶ力や好奇心を身に付けることができるように、平教育振興基金による、プラスティ教育研究所の授業推進に取り組んでいる。また、英検への取り組みでは、市からの受検料助成もあり、４年間で成果も出てきていると感じている。今年度については、中学３年生で３級以上は６２．２％で、前年比７．２％増である。令和６年度までに７０％を目標としている。中学校全体としては、高校卒業程度の２級が４人、準２級が３０人、３級が１５０人となっている。小学校高学年からの取り組みの成果である。これにより、中学英語が高い学力を有することにつながっている。

② ICT教育の推進・有効活用について

ギガスクール構想に基づいた1人1台のパソコンの整備完了により、まず教職員には、「使って慣れろ」からスタートした。若手教員によるプロジェクトチームの立ち上げ、ハクイズム確立に向けた活動、各校にギガ推進リーダーを配置するなどの対応により授業改善に努めている。今後はICTを有効活用して、高い学力を如何にして維持していくかが大事になってくる。また、2人のICT支援員の協力により教職員の負担軽減が図られている。臨時休業や不登校児童・生徒に対応するため、オンライン環境を整備についてもICTを有効活用していきたい。

(課題)

①長期的な視点での学校の適正配置・統廃合

将来的な児童・生徒の減少は周知の事実である。学校施設長寿命化計画では、邑知小・余喜小の統合、羽咋小、栗ノ保小、瑞穂小、西北台小の4校を2～3校にする方針になっている。これに従い、適正配置、統廃合に取り組んでいく必要があるが、喫緊の課題として、余喜小は複式学級が2学級ある現状を踏まえ、邑知小・余喜小の統合に向けて、2学期に保護者説明会を開催し準備に取りかかっている。

②ICTを活用した授業改善や学力の定着・向上につながる活用

ICTの活用については、教員によって使用の格差が生じてきている。その差がICTを活用した授業改善に表れている。ICTを活用することにより、これまで大事にしてきた、児童・生徒の対話力や質問力の維持などに影響を与えている。あと、児童・生徒の机が狭いことが課題である。教科書がA版と大きくなり、またICT機器を使用している。効率的に学習していくには、机の補助器具が必要になってきている。

【協議事項(2)について】

今井委員：邑知小・余喜小の統合についての私の意見として、余喜小は児童数の減少により平成30年から複式学級となっており、現在は3年と4年、5年と6年が複式学級である。これは一時的なことではなく今後も続いていく。羽咋市ではこれまでも複式学級の学校があったが、学校の統合により解消してきている。体育や音楽などは2学年合同での授業も可能であろうが、算数など基礎科目は、学年が違えば内容も違ってくる。学力は積み上げていくものだと思う。高い学力を維持していくには複式学級

の解消が必要で、解消の現実的な方法は周辺の学校との統合である。邑知小・余喜小では、マラソン大会や遠足などは、既に合同で行っている。交流が進んでいることもあり、この両校が統合することが現実的だと思う。今年、余喜小PTAで余喜小の現状についての説明会を開いた。子どもの教育環境を整えることが行政の最優先の課題である。統合については多くの課題がある。これまでの羽咋市での統合の経過においても、多くの課題を解消して統合を行っている。統合は保護者だけでなく地域の理解が必要になってくる。

岡田委員：羽咋市では、令和2年度から第3子以降、令和3年度から中学3年生の給食費を無償として子育て支援を行っている。とても感謝している。特に中学3年生については、県内では羽咋市と小松市だけで先進的である。更なる子育て支援として、教育負担の大きい中学1年生、2年生にも拡大していただきたい。中学になると色々とお金がかかってくる。無償になれば保護者も非常に助かると思う。

西浦委員：現在、羽咋市の児童・生徒は全国トップの学力を有している。私は全国トップの学力を有しているということに、最初懐疑的であったが、プラスティ教育研究所の清水先生によると、羽咋の子どもは授業等での反応が良く、授業の雰囲気も大変すばらしい、ということを知り納得するようになった。今後も高い学力を維持していくために、平教育振興基金を活用して、児童・生徒が、自ら学ぶ力や知的好奇心を持って伸び続ける能力を身に付けることができるようにしていただきたい。平さんは、レジリエンス力を持った子ども達を育てていきたいと仰っている。また、ICT教育の環境はだいぶ整備されてきているが、それに伴いハクイズムの推進を図っていただきたいと思っている。

西委員：教職員の多忙化改善のために、スクール・サポート・スタッフや学校支援員の配置についてお願いしたい。私が教育委員会にいた10年前は、学校支援員は2人だったが、現在は21人である。羽咋市の取り組みに凄く感心している。しかし、4時間勤務の方が何人かいるが、午後からも授業があるので、1日勤務に拡大していただきたい。ICT支援員が2人の配置となっている。年配の方や若い方でもICTが苦手な人がいる。非常に助かっていると思う。部活動支援員も大事だと考える。部活動指導員については、中学校の教職員の多忙化改善に役立っていると思うので、増員についても検討していただきたい。

岸市長：まず、学校の適正配置については、これまでも統合で学校が無くなると地域の活気が無くなるという意見が多くあった。市として活性化対策を示す必要があるかもしれない。余喜地区については、公民館とスポーツセンターの場所は地盤が適切でな

い関係もあり取り壊す予定となっている。代替施設や小学校の跡地利用などを検討しなければならない。これらのことは、地元の方々と話し合いをしながら進めていく必要がある。

次に学校給食については、令和2年度から第3子以降を無償としているが、3人目の子どもが結構いると思った。支援の拡大については、1度には無理だが、予算をみながらではあるが、段階的に拡大していきたいと考えている。

次に、平教育振興基金については、教育課程で教えること以外の分野で活用していただきたいと考えている。教育と学習の違いの話になるが、教育は先生が教えて育てる。学習は自ら意欲を持って学んでく。と考えており、基金の活用は、自ら学ぶ環境づくりに役立ててほしいと思う。平さんの意向でもある5年間で成果がでるようにしたいと考えているが、これにより、教職員の負担が増えないように配慮していきたいと考えている。

次に、学校のサポート体制については、現場の先生方のサポートとしての学校支援員の充実のことであるが、年度によって必要な人数が違ってくると思うが、予算や全体的なバランスも考慮して検討していきたい。また、図書館指導員については、ICTの推進によって本を読む機会が少なくなっている感じがするが、本に親しむためにも、図書館の充実は必要だと考えている。

今井委員： 邑知小・余喜小の統合について、今後は、統合の準備についてスピードをあげて取り組んで欲しい。地域では、統合については賛成だが、細かい部分で反対がでてくると思う。市のこれまでの取り組みを参考にして、できるだけ地元の要望が反映するように、協議会のような組織を立ち上げて進めていって欲しい。

岸 市長： 複式学級についてはいい面もあると思うが、先生の力量も問われる。統合することによって経費が浮くわけではないが、子ども達にとって公平な教育環境をつくるのが大事だと考える。統合については、総論は賛成、各論は反対ということが想定される。丁寧に地元と話をしながら進めていきたい。

岡田委員： 子ども達は、学校生活のなかで給食が占める割合は非常に大きいと思う。後の同窓会などでも給食の話題が多いと聞いている。

岸 市長： 私も給食の時間が楽しみだった。給食の時間は色んな話をしながら楽しく食べてもらいたい。あと、先般の議会で、給食で使用しているお米が2等米という話がでた。お米については県が一括で契約をしているが、2等米を1等米に変更すると、年間で十数万円高くなるということだが、契約などの仕組みも検討しながら、1等米を使用する支援についても考えたい。

【協議事項（３）について】

八島教育長：羽咋市の不登校やいじめの状況について報告したい。これらの事は、先般の議会で質問があったことであるが、不登校については、11月末現在で、小学校で5人、中学校で19人である。小学生で2人増、中学生で3人増となっているが、県の増加傾向より低い数字である。中学校では、女子生徒が思春期ということもあり、人間関係などが原因として挙げられている。先生方も頑張っているが、一筋縄ではいかないのが現状である。いじめについては、定期的にアンケートや面談を行っており、大きな問題は生じていない。

今井委員：不登校について、コロナ禍で学校が休校になったりしたが、それが原因での不登校の事例はあるのか。

八島教育長：若干ではあるが、長期の休校で、生活リズムの変化や勉強への不安などが原因で不登校になっている子どももいる。

西浦委員：不登校の子どもになるのが、清水先生の話によると、原因として、「学校に行きたくない」「学校に行きたいけど、行けない」によって対応は違ってくるということである。

八島教育長：多様性の時代ということもあり、学び方も色々あると思う。「学校に行きたいけど、行けない」場合、勉強が難しいことが原因の場合は、学校が責任を持って対応しなければならないが、家庭の色々な事情が原因の場合は、学校も対応が難しいのが現状であり、原因をよく見極めて対応していく必要があると考えている。

次回の会議開催については、今年度内に協議事項が出てきた場合はその都度、次年度については適切な時期に開催することとした。

八島教育長が閉会のあいさつをし、会議を終了する。

午前10時56分閉会